

令和3年度小中英語パートナーシップ事業 推進地域実践報告(県北地区)

共通テーマ 「豊かな言語活動を通した、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

	拠点校Ⅰ (本宮市立本宮第一中学校)	拠点校Ⅱ (本宮市立本宮まゆみ小学校)	協力校 (本宮市立本宮小学校)
次年度への展望	○ 交流を次年度以降も続けていくことは大きな発信力の強化につながる。本宮市の国際交流課と連携して今後も継続していく。授業とどう組み合わせるのかも考えていきたい。	○ 普段の授業の中で、児童が1人1台端末を使って、音声の録音やビデオ撮影、プレゼンテーションアプリなどを通して、積極的にやり取りをしながら、英語で自己表現活動を行いたい。	○ 普段の授業の中で、児童が1人1台端末を使って、やり取りをしながら、英語で自己表現活動を行いたい。
取組を振り返って	○ 英語で生徒たちがイギリスとの交流ができたことは、大きな経験になった。交流が決まってからの生徒達の取組も、1人1台端末を使って分からない言い回しを調べるなど、GIGAスクールを受けて、主体的な学びの姿が見られた。	○ 語彙習得のための練習は効果があり、これからも続けたい。 ○ 1人1台端末を使って、写真やイラストを活用しながら視覚的に理解させるなどの工夫を継続したい。	○ 語彙習得のための練習はとても効果があった。これからも続けたい。 ○ 1人1台端末を使って、身の回りの写真やイラストを活用しながら、表現する内容を視覚的に理解させるなどの工夫を継続したい。
課題に対する具体的な取組	○ Zoomを使った国際交流。 ○ 拠点校Ⅱの小学校と連携して取り組んだ(「スラスラ英単語」)。 ○ 1人1台端末を使ったスピーチやスキット発表。	○ 語彙力を付けるためにワードマソンという活動を行った。ペアで英単語を読み合い、単語を覚えることができた。 ○ 1人1台端末で、原稿に画像を貼付することで、児童同士が楽しく英語で話す機会を多く作ることができた。	○ 語彙力を付けるためにワードマソンという活動を行った。ペアで英単語を読み合い、単語を覚えることができた。 ○ 1人1台端末で、原稿に画像を貼付することで、児童同士が楽しく英語で話す機会を多く作ることができた。
年度当初の課題	● 英語でのコミュニケーションを行うことに苦手意識をもつ生徒が多く見られた。 ● 基礎的・基本的な学習内容の定着に課題が見られた。	● 英語を苦手と思う児童が多く、自分から英語で表現することがなかなかできない状況だった。	● 英語に興味をもっているが、会話をすることに戸惑う児童が多く、自分から英語で表現することがなかなかできない状況だった。

推進地域の重点的な取組

- 児童生徒が資料を使い、英語で意欲的に表現しようとする態度を育てること。
- 積極的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てること。